



取扱説明書

Version 1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

©2023 Sound House Inc.

目次

目次.....	2
はじめに.....	3
概要.....	3
接続.....	5
ミキサーコンソールの設定.....	6
iPad 設定.....	7
デバイスアドレス設定.....	8
メインフェーダーページ (Si)	11
メインフェーダーページ (Vi)	14
プロセッシングページ (Si のみ)	15
プロセッシングページ-EQ (Si のみ)	16
プロセッシングページ-その他 (Si のみ)	18
メーターページ (Si のみ)	20
ViSi REMOTE V2.1.x 注意事項.....	21
トラブルシューティング	22

はじめに

この度は Soundcraft ViSi Remote をご利用いただき、誠にありがとうございます。ViSi Remote は、Si Impact、Si Performer、Si Expression、Si Compact ミキシングコンソールをワイヤレスでリモートコントロールできる iOS/Android アプリケーションです。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

概要

Soundcraft の FaderGlow™グラフィックがコンソールを忠実に再現するため、操作は簡単です。ワイヤレスが切断されても、コンソールとオーディオは影響を受けません。

コンソールの Harman HiQnet®イーサネットポートに接続されたワイヤレスアクセスルーター以外に、追加のハードウェアは必要ありません。

ViSi Remote を使えば、会場を自由に歩き回り、iPad から直接ミックスやその他のオーディオパラメーターを調整することができます！

オフライン機能

ViSi Remote はオンラインコントローラーながら、オフラインでデモやトレーニングを行うことができます。しかしながら、オフラインエディターとして使用することはできません。

ViSi Remote はコンソールと一方向にのみ同期し、常に接続されたオンラインのホストコンソールから現在の設定を受信するようになっています。

オフラインのセットアップのために、コンソールに特化したオフラインエディターを提供しています。

www.soundcraft.com からダウンロードできます。

本マニュアルについて

本マニュアルは、ViSi Remote for iPad / Android (Pads) アプリを初めて使用するユーザーのためのガイドとして作成されています。Si シリーズミキサーコンソール上の基本的なセットアップ要件、iPad 上の ViSi Remote 固有の設定をカバーし、アプリによって提供される機能について説明します。

本ソフトウェアは膨大な数のルーターや同様のデバイスが利用可能です。ネットワークで使用されるワイヤレスルーターや同様のデバイスのセットアップと管理についてはこのマニュアルではカバーしていません。

本マニュアルは、Apple iPad に精通し、ViSi Remote で使用することを目的とした Soundcraft コンソールの実務知識を持つ読者を対象としています。

本マニュアルに記載されている例は、Apple iOS 9.3.2 を使用してテストされています。

このマニュアルに記載されている例は、Apple iOS 7.1.1 でテストされていますが、ViSi Remote 2.1.x は iOS 6.n.n とも互換性があります。

接続

最も基本的な典型的なセットアップを以下に示しますが、同じワイヤレスルーターに接続された複数の Soundcraft コンソールや、同じコンソールをコントロールする複数の iPad デバイスなど、他の組み合わせも可能です。



「コンソール/ ViSi Remote」接続には、ルーターを共有する他のデバイスが帯域幅を消費するリスクを避けるため、専用のワイヤレスルーターを使用することをお勧めします。ワイヤレスシステムへの「許可されていない」接続を防ぐため、ルーターのセキュリティを有効にすることをお勧めします。

Wi-Fi ドメイン内で大きなトラフィックや干渉が発生すると、動作が遅くなったり、信頼性が低下したりすることがあります。このような問題が発生した場合は、Wi-Fi IT の専門家にアドバイスを求めることをお勧めします。

ミキサーコンソールの設定

IP アドレスの設定

ViSi Remote をオンラインで使用する前に、iPad とコンソール間でネットワーク接続を確立する必要があります。

最も簡単な解決策は、ルーターを DHCP サーバーとして設定し、コンソールと iPad で DHCP アドレッシングを使用するように設定することです。

コンソールの IP アドレス設定の調整方法については、コンソールのユーザーガイドを参照してください。

コンソール HiQnet 接続ポイント

HiQnet ポート(標準イーサネット入力)は、Si Impact、Si Expression、Per-former、Compact コンソールの背面にあります。電氣的接続が確立されていることを示す緑の LINK LED と、データの流れを示す DATA LED があります。

Vi1 と Vi3000 では、HiQnet ポートはコンソール背面の Ethercon 接続として背面にあります。また、データフローを示す緑のランプがあります。

Vi2/4/6 にはそれぞれ、コンソールサーフェス背面に HiQnet ポートがあります。これらは安全なイーサネット・コネクタで、データフローを示す緑色のランプが付いています。

ルーターの設定

ViSi Remote の動作環境を構築するには、ネットワークルーターの初期設定が必要です。

IP アドレス設定

ルータには、DHCP または手動アドレス設定を使用して IP アドレスを設定するオプションがあります。設定手順をシンプルにするために、ルータを DHCP に設定することをお勧めします。設定へのアクセス方法については、選択したルーターのユーザーガイドを参照してください。

UDP を有効にする

ViSi Remote のグローバルおよびチャンネルごとのメータリングを利用するには、選択したルーターがコントロールパネルで UDP を有効にしている必要があります。

UDP を有効にする方法については、選択したルーターのユーザーガイドを参照してください。

iPad 設定

ViSi Remote のグローバル設定は、iPad の設定から行うことができます。

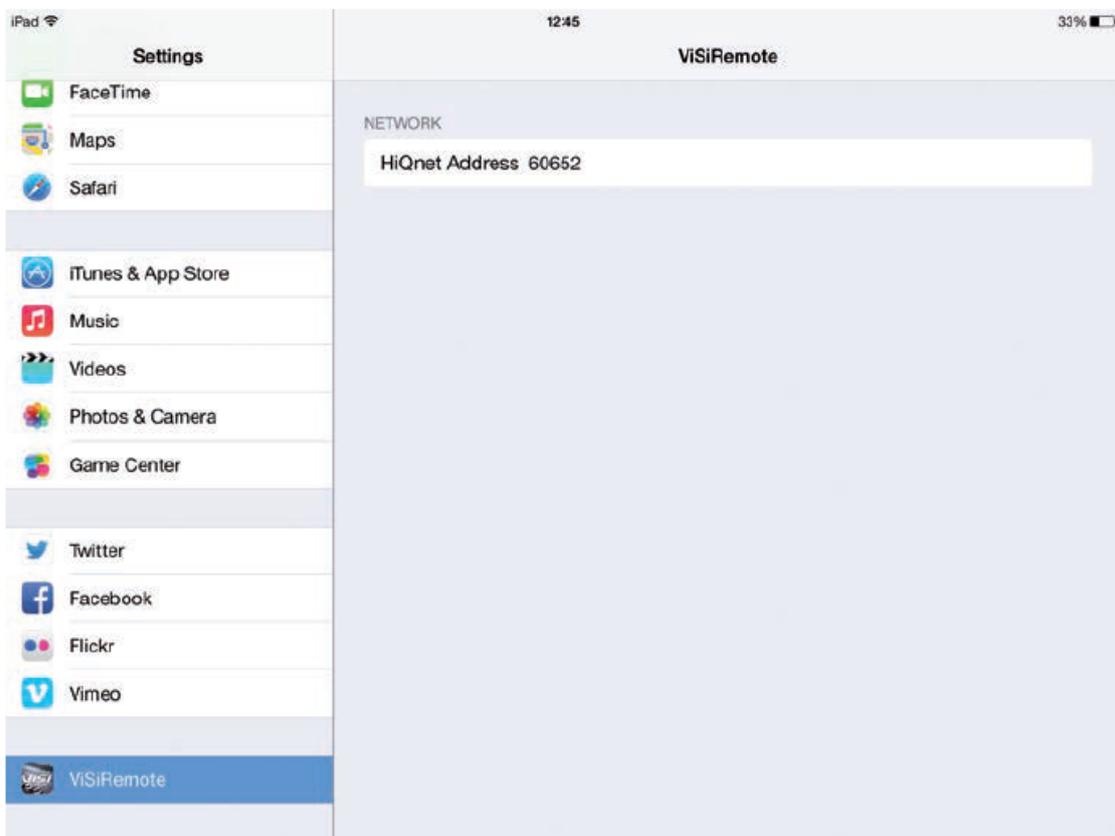
リストビューをスライドして「アプリ」セクションを選択し、ViSi Remote を選択します。

「HiQnet アドレス」には現在の HiQnet アドレスが表示され、iPad デバイスの新しいアドレスを設定することができます、

このアドレスはルーターに接続されている全ての HiQnet デバイスで一意である必要があります。

HiQnet の有効範囲は 1~65535 です。

「HiQnet デバイス・アドレスの設定」を参照してください。



デバイスアドレス設定

オンラインで見つかったコンソールの HiQnet アドレスは、ViSi Remote アプリのデバイスの横に自動的に表示されます。アドレスは 65535 個以上あるため、重複する可能性はほとんどありませんが、これらのアドレスが iPad とコンソールに固有であることを確認してください。

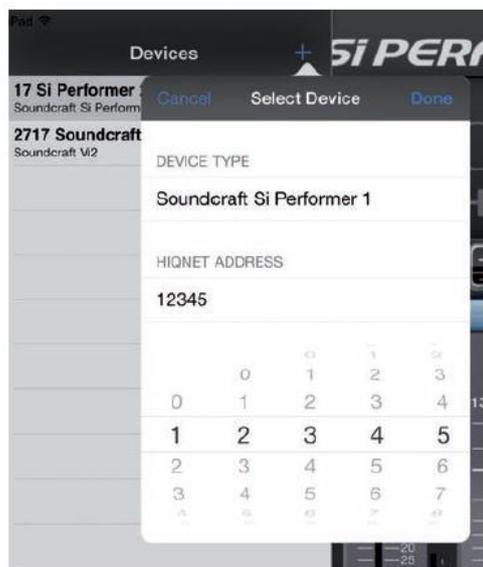
注意

デバイスには固有の HiQnet アドレスが必要です。一意のアドレスがないと、ネットワーク上の一部または全部の HiQnet 機器の動作が不安定になったり、信頼性が低下したりします。

オフライン・デモやトレーニング用にデバイスを

手動で追加する場合、Select Device メニューから HiQnet アドレスを設定することができます。このアドレスは現在の設定にのみ適用され、デバイス・リスト内のデバイスの位置にのみ影響します。

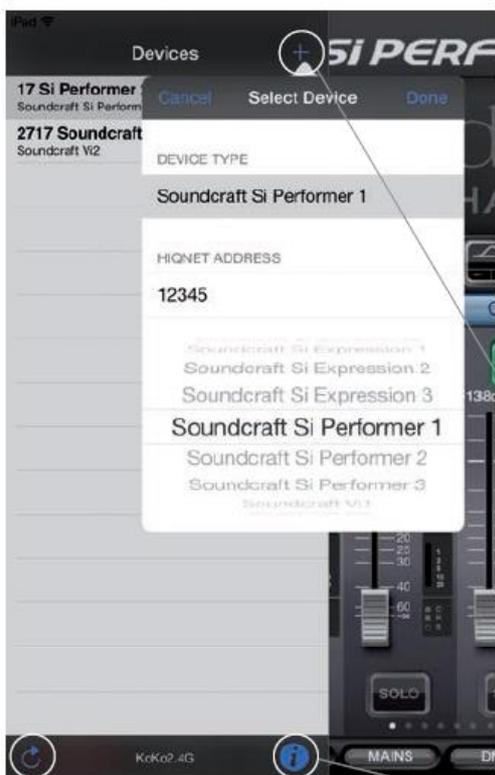
コンソールの IP アドレス設定の詳細については、コンソールのユーザーガイドを参照してください。Soundweb London のような他の HiQnet デバイスの場合は、HiQnet アドレスの管理について適切なソフトウェア/サポートマニュアルを参照してください。



デバイスとデバイスビューの選択

ViSi Remote の「Device」ボタンを押すと、デバイスビューが開きます。ネットワーク上でコンソールが検出された場合、それらは自動的にデバイスリストに表示されます。デバイスリストに表示されたコンソールを「開く」場合は、コンソール名をタッチして、選択したコンソールのコントロールビューを開きます。

デバイスおよび Select Device ビューに関連するその他の機能は以下のとおりです：



[+]オープンボタン

- デバイスの選択]ビューで、実際のコンソールが接続されていない場合に使用するオフラインコンソールを追加できます。
- オフラインのコンソールはリスト内でグレースアウトした項目として表示され、ネットワーク上で検出された実際のコンソールは黒い文字で表示されます。

[i] About ビューボタン

[🔄] コンソール・リスト

リフレッシュボタン

- オフラインのコンソールは、アプリを最小化状態から戻したり、再起動したりするたびに、デバイスリストから削除されます。

注意

「編集」ボタンでデバイスリストから手動で削除されたコンソールの中、ネットワーク上でまだ検出可能なものは、自動的に再表示されます。

- 「デバイスタイプ」フィールドでリストを開き、オフライン編集や ViSi Remote デモ用の新しいコンソールタイプを選択します。
- 「HiQnet アドレス」フィールドでは、オフラインコンソールの HiQnet アドレスを手動で設定できます。

注意

オンラインコンソールの HiQnet アドレスは、ViSi Remote からは編集できません。コンソールで設定する必要があります。

- iPad が現在接続されているネットワーク名は、リストの一番下に表示されます。この例では、現在接続されているルーターは「Koko 2.4G」です。

About ビュー [i]

「バージョン情報」ビューは、デバイスビューの [i] ボタンで開きます。現在のバージョンにおける編集不可の情報が表示されます。



メインフェーダーページ (Si)

Si Performer 2



チャンネル名の変更

チャンネルラベルをタップしたままキーボードを表示します。新しい名前を入力し 'done' を選択して変更を確定します。チャンネル名がコンソールに反映されます。チャンネルラベルをタップすると、そのフェーダーがホットフェーダーに送られます。

ナビゲーションタブ

- **Inputs** : コンソール入力をコンソールサーフェス上に編集用に表示します。
注意: 入力にはモノラルマイク入力とステレオ入力 (FX リターンを含む) があります。入力は右から左 (Si Performer では 1-80) にレイアウトされます。
- **Mixes** : ミックスマスターを編集用にコンソールサーフェス上に表示します。ミックスは左から右 (Si Consoles では 1-14)。
- **VCAS** : アプリから編集用に VCA マスターを表示します。
注意: VCA のアサインは現在アプリでは利用できません。コンソールから設定する必要があります。
注意: Si Expression と Compact には VCA のオプションがありません。

Mains : 編集用に **LR** と **Mono** のバスをコンソールサーフェスにアサインします。

- **DMX (Si Performer のみ)** : レベルコントロール用の **DMX** マスターのみを表示します。
注意 : **DMX** の設定は、最初にコンソールで行う必要があります。
- **Contrib** : モニターへのミキシング用に、サーフェスのフェーダーの「センド」を有効にします。「ホットフェーダー」ポジションで異なるバスが選択されていない限り、フェーダー上の「センド」はデフォルトでミックス 1 になります。
- **Meters** : グローバルインプット、ゲインリダクション、ゲートステータスメーター用のメーターブリッジページを開きます。メーターブリッジのページで特定のチャンネルにナビゲートすることもできます。(詳しくはメーターブリッジのセクションをご覧ください。)

Info view

コンソールコントロールビューを開いた状態で[Info]ボタンを押すと、コンソール固有の情報を見ることができます。

- **Locate (Vi コンソールのみ)** : 複数のコンソールが同じ LAN 上に接続されている場合、**Locate** を **ON** に設定すると、コンソールのボタンや画面の一部または全部が点滅し、特定のコンソールを識別できるようになります。
- **デバイス名** : コンソールコントロールビュー画面のデバイス名。
- **IP アドレス** : コンソールコントロールビュー画面のデバイス IP アドレス。
- **サブネットマスク** : コンソールコントロールビュー画面のデバイス・サブネットマスク。
- **HiQnet アドレス** : コンソールコントロールビュー画面のデバイス **HiQnet** ノードアドレス。

オンライン/オフライン

現在アクティブなデバイスがオンラインであれば緑色に点灯します。すべての仮想デバイスと、何らかの理由でオフラインになった実デバイスのインジケータはグレーに点灯します。

ホットチャンネル

「ホット・チャンネル」は右端にあり、さまざまな機能を提供します：

GEQ (グラフィック EQ)

ホットチャンネルにバスマスターがアサインされた場合、GEQ ボタンが表示されます。ゲイン 0dB に設定されていないバンドは ON ボタンが赤く点灯し、ON ボタンをタップするとバンドゲインが 0dB にリセットされます。

GEQ は、スワイプすることで利用可能なバンドをスクロールすることができます。最後に表示されたページは、現在のバスのために記憶され、次回 GEQ を開いたときに表示されます。



SENDS

このボタンをタップすると 'Bus Select' ビューが開き、ミックスしたいバスを選択することができます。バスを選択すると、ViSi Remote はセンド・オン・フェーダー (コントリビューション) モードになり、ソースがフェーダー経由でバスに供給されるようになります。

CONTRIB モードでは、ON ボタンでチャンネルからバスへのセンドをオン/オフします。

CONTRIBUTIONS はスワイプでスクロールし、利用可能なすべてのチャンネルにアクセスできます。



Bus Select ビューで LRC ボタンを押すと、L&R フェーダー (Si Compact、Expression、Performer シリーズ) がホットチャンネルに配置され、標準の INPUTS モードに戻ります。

スクロールボタン

例えば Soundcraft Vi1 の場合、VCA マスターがホット・チャンネルにアサインされていると、スクロール・キーを使用して VCA1-8 をスクロールできます。



注意

CONTRIB モードの場合、ホットチャンネルの割り当ては無効となります。

メインフェーダーページ (Vi)

Info ボタン
Info メニューを開きます

GEQ
GEQ を編集用のフェーダーに接続

SENDS
モニターへのミキシング用にフェーダーのセンドをアクティブにします。

<>スクロール
ホットフェーダーの選択

「ホットチャンネル」
詳細はホットチャンネルをご覧ください。

デバイスボタン
デバイスメニューを開く

チャンネル/バス/フェーダー名
名前をタップして「ホットチャンネル」としてアサインする

ナビゲーションタブ
フェーダー/機能タイプを変更

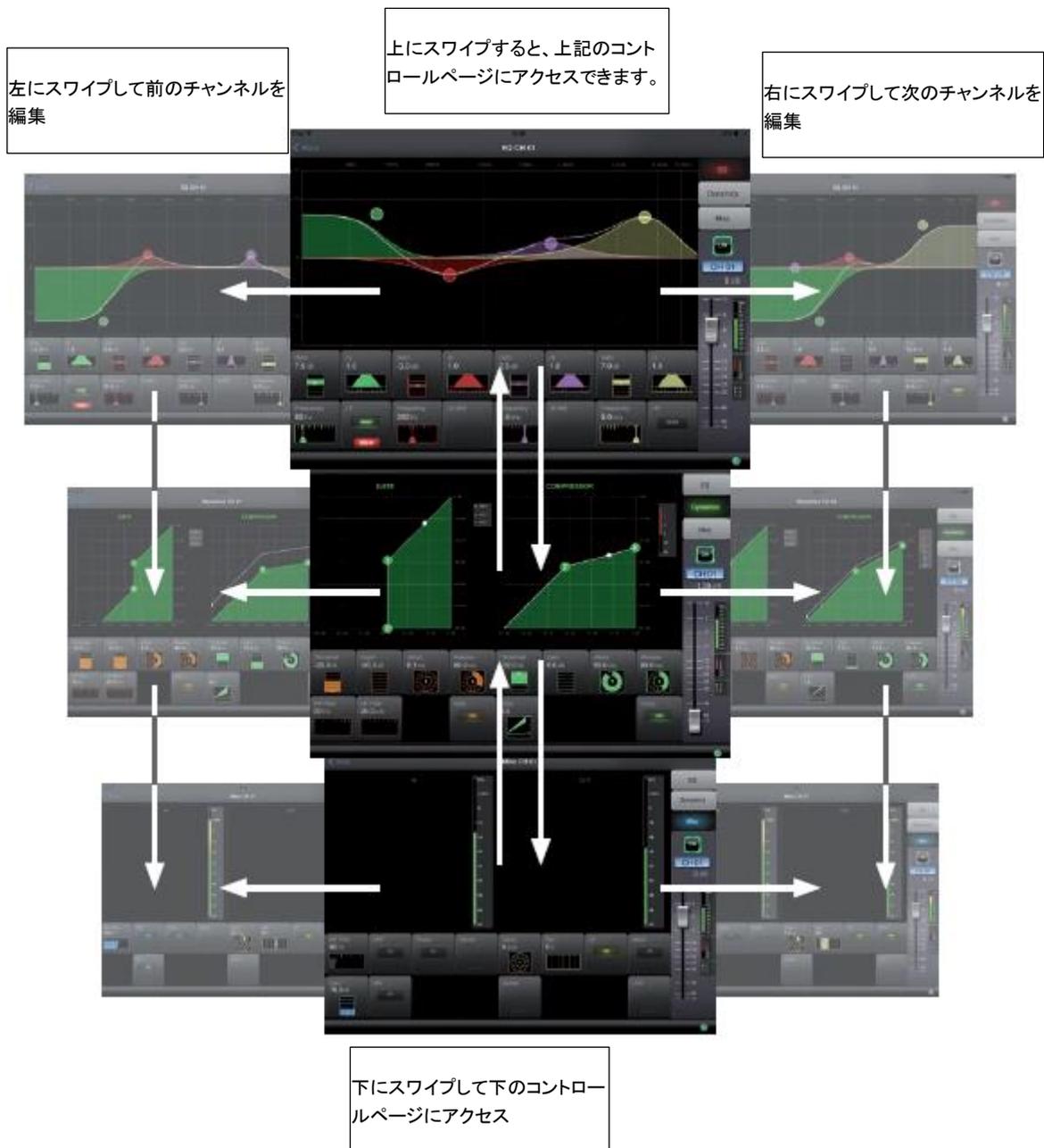
メインフェーダーペイ:ON' と SOLO ボタン、フェーダー・コントロール。「スワイプ」で他のフェーダーにアクセスできます。

操作

ViSi Remote for Vi は、ViSi Remote for Si とナビゲーションや基本機能は同じです。ViSi Remote for Vi には、コンソールのチャンネルをリモートでソロ再生する Solo ボタンがアプリの一部として含まれています。

サウンドチェック時に IE システムを使用する場合、マイクのセットアップ中にエンジニアがチャンネルをソロにし、入力ソースを聴くことができます。

プロセッシングページ (Siのみ)



プロセッシングページ-EQ (Si のみ)

Si Performer 2 画面

The screenshot shows the EQ CH 01 interface. At the top, there's a frequency spectrum graph with a white line for the overall EQ response and colored areas for individual bands. Below the graph are eight EQ bands, each with a gain knob, Q factor, and frequency range. On the right side, there are control tabs for EQ, Dynamics, and Misc, along with a volume knob and a channel selector.

EQ ポイント

色分けされた EQ バンドによるパラメトリック EQ カーブ。

色分けされた EQ パラメータ値

現在選択されているチャンネルのフェーダーレベル、インプットメーター、ゲインリダクションメーター、ゲートステータスインジケーター

EQ In/Out トグル

EQ バンドラベル

EQ Peak/Shelf トグル (Si Performer のみ)

処理タブ: タブを選択するか、ページを上下にスワイプすると、処理ページが切り替わります。左右にスワイプするとチャンネルを移動できます。

EQ グラフ表示

グラフ内では、結果のカーブ（白線）と、影響する EQ バンドがカラーで表示されます。白線は EQ バンドに沿って、スムーズな EQ レスポンスを実現します。

EQ の調整（グラフィック）

グラフポイント・インジケーターを使用して、EQ バンドをポイントで掴み、左右の動きで 20Hz-20kHz の周波数を調整（選択した EQ バンドのレンジによる）できます。また、上下の動きでゲインの値をプラスからマイナスに調整します（EQ のブーストとカットはコンソールによって異なります）。

EQ の調整 (パラメトリック)

EQ 画面下部のパラメーターを使い、精度の高いポップアップホイールで微調整が可能です。



パラメータをタップすると、ホイールが表示されます。ホイールを押しながら、ホイールを時計回りまたは反時計回りに回すと、値が増減します。または反時計回りに回すと、値が増減します。

プロセッシングページ (ダイナミクス)

Si Performer 2 画面



ゲートとコンプレッサーのレベルメーター

各ダイナミクス・プロセッサーへの入力信号を表示します。白いマーカーがグラフに沿って移動し、設定されたスレッシュホールドに対して入力信号がどの位置にあるかを表示します。

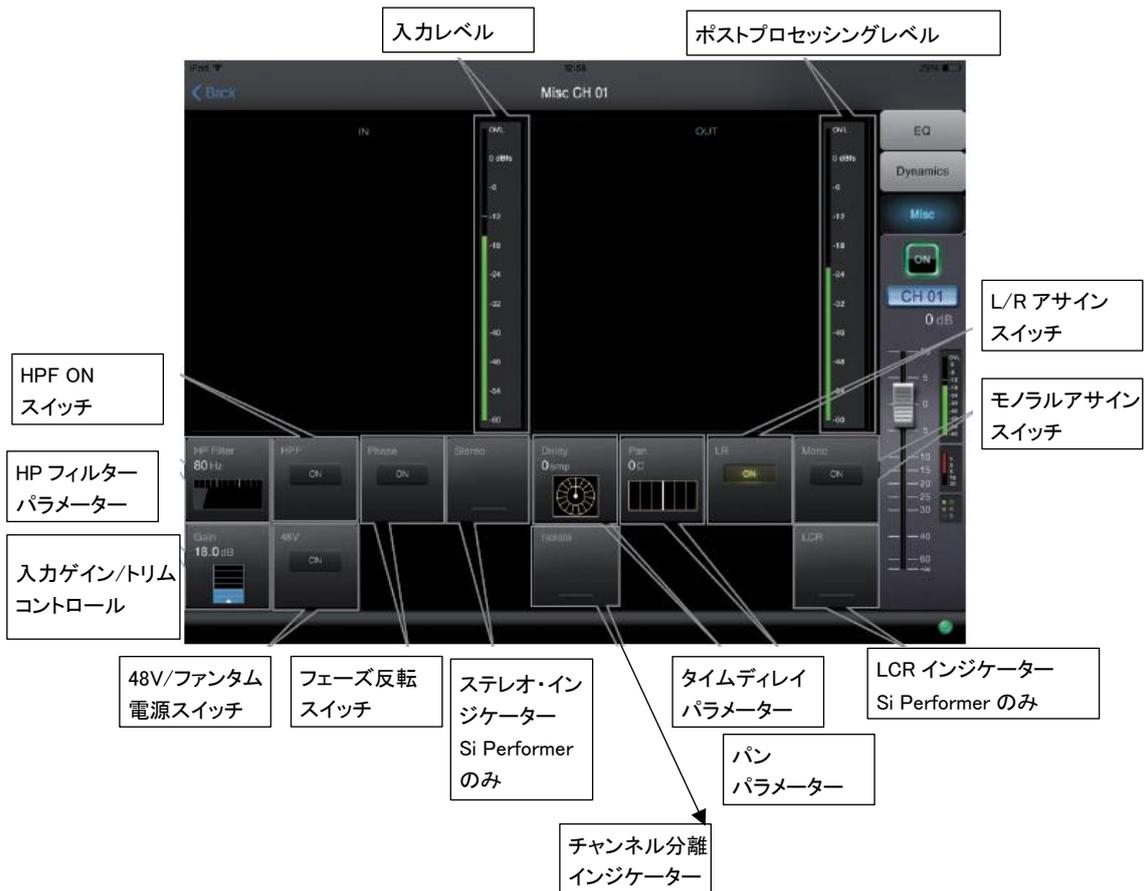
注意

コンプレッサーはシグナルパスにおいてノイズゲートの後にあるため、ゲートが閉じられるとコンプレッサーに入力されるシグナルはゲートの深さ設定によって減少します。

信号メーターを見るときは、この信号経路に注意してください。

プロセッシングページ-その他 (Si のみ)

Si Performer 2



メーターディスプレイ

ViSi Remote には、チャンネルの概要を把握するのに便利なメーターポイントが 2 つあります。最初のメーターポイントは入力 (コンソールと同じ) です。これは左側にあり、最適なレベルを得るためにゲインコントロールと一緒に使用する必要があります。

画面の右側にある 2 つ目のメーターは、ACS がチャンネルに与えるエフェクトを確認するためのポストプロセスのレベルです。このフェーダーがクリッピングする場合、プロセッサがチャンネルにゲインを追加しすぎていることを示します (EQ のブロードバンドブースト、コンプレッサーのサープラス、メイクアップゲイン)。

注意

ポストプロセッシングメーターをクリッピングしても(40ビット浮動小数点DSPのおかげで)聴感上のクリッピングは生じませんが、ミキシングに最適なゲイン構成を実現するためには、この信号をコントロール下に置いておくのがベストです。

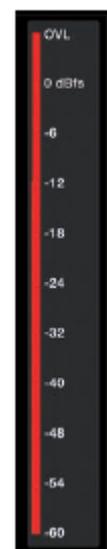
ゲイン/トリム、48V コントロール :

ViSi Remote は、ホイールと高解像度メーターを組み合わせ、入力されたマイク信号のゲインを正確にコントロールします。ゲインが高すぎてチャンネルがクリッピングすると、メーターが赤く点灯し、チャンネルがクリッピングしていることを明確に示します。

すべてのマイク信号において、48V のトグルスイッチが表示され、使用できます。ラインまたはデジタル入力を選択すると、トリムコントロールが表示され、ファンタム電源スイッチは消えます。

注意

ライブ PA から 48V をオンにする場合はご注意ください。



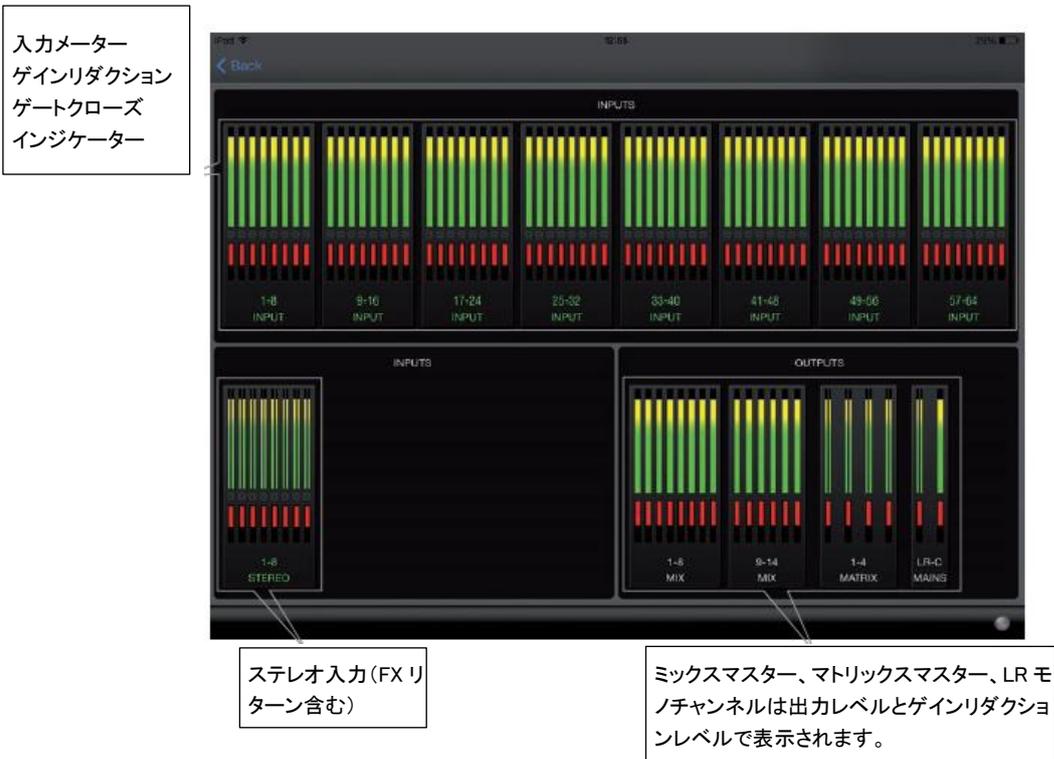
インジケータ

ミックスクリンに表示されるインジケータは、チャンネルの全体的なステータスを表示するものです。Stereo インジケータが点灯するのは、Stereo インputまたはアウトput (FX リターンまたはステレオミックスバス) が選択されている場合のみです。また、タッチスクリンのインputまたはアウトputメニューでアイソレートが有効になっている場合、アイソレート機能が点灯します。

これらの機能をインジケータでオン・オフすることはできません。LCR またはアイソレートのオン/オフは、セットアップ中にコンソールで行う必要があります。

メーターページ (Siのみ)

Si Performer 2



メーターページ

METERS ページには、すべてのインプットとアウトプットチャンネルのクリップを表示する高解像度のインプットメーター、すべてのインプットとバスのゲインリダクションメーター、すべてのインプットチャンネルのゲートステータスインジケーターが表示されます。

ナビゲーション機能付きメーターページ

メーターブリッジは広大なメーターの可能性を提供するだけでなく、メインフェーダーページのチャンネルやバスへ直接ナビゲーションも可能です。メーター・ブリッジで8チャンネルのセグメントをタップするだけで、そのチャンネルのフェーダー・ベイページに直接ジャンプできます。



ViSi REMOTE V2.1.x 注意事項

ViSi Remote V2.1.x では以下の点にご注意ください。

- Processing ページと Meter Bridge ページは、Si Expression、Performer、Compact コンソールでのみ使用できます、
- ViSi Remote 2.1.x は iOS 6.x 以降にのみ対応しています。
- iPad 1 は iOS 6.x 以降と互換性がありません。
- 接続性は、ルーターの設定、干渉、ルーターと iPad が動作する環境によって異なります。接続に問題がある場合は、WiFi 信号強度、ルーター設定、必要に応じて他の 2.4/5GHz デバイスからの干渉を確認してください。

オフライン操作に関する注意事項

前述したように、アプリのオフライン操作はデモンストレーションや試し操作のためのものであり、コンソールで使用するためにアプリ上でファイルを設定したり保存したりできません。

オフラインで使用する場合の注意点は以下の通りです。

- 実際のコンソールに接続する前に、デバイスリストにオフラインコンソールを作成する必要はありません。実際のコンソールは常に検出され、自動的にデバイスリストに表示されます。
- オフラインコンソールは、常に「デバイス」リストで「グレー表示」されます。これは、手動で作成したオフラインコンソールにも、ネットワーク接続が切断されたり HiQnet ポートが無効になったりして「オフライン」になったリアルコンソールにも当てはまります。
- ViSi Remote は、コンソールのバスタイプやプリ／ポスト設定からフェーダー照明の色を取得するため、オフライン時に ViSi Remote のフェーダー照明の色がコンソールと一致しない場合があります。
- GEQ 帯域を 0dB にする GEQ ON キーはオフライン時に動作しません。この時、コンソールから'GEQ band not at 0dB'というメッセージが出ます。

トラブルシューティング

ViSi Remote は、免許不要の無線環境で動作する際に課される制限を考慮し、可能な限り信頼性が高く安定するように設計されています。万が一、ViSi Remote が期待通りに動作しない場合は、以下の点を注意深くチェックしてください。

- **お使いのコンソールと iPad のソフトウェアは ViSi Remote に対応していますか。**
コンソールのソフトウェアをチェックし、最新バージョンであることを確認してください。また、ViSi Remote のページをチェックし、iPad で ViSi Remote の最新バージョンを実行していることを確認してください。
- **コンソールで使用するルーターの WiFi に接続していますか。**
iPad が複数のネットワークを「検知」しているとき、ViSi Remote のネットワークが失われたり、ドロップアウトした場合、iPad は自動的に別の既知のネットワークに切り替わります。これは iPad OS の機能です。iPad が現在使用しているネットワークは、ViSi Remote デバイスマニューに表示されます。
- **IP アドレスは正しく設定されていますか。**
手動で IP アドレスを設定する場合は、その範囲が有効であること、ネットワーク上の 2 つのデバイスが同じアドレスを持っていないことを確認してください。この設定は、ViSi Remote が使用するネットワークを共有するすべての機器 (iPad や HiQnet 以外の機器も含む) に必要です。DHCP を使用する場合は、ネットワーク上のすべてのデバイスが IP アドレスを解決する方法として DHCP に設定されていることと、ルーターが DHCP サーバーとして設定されていることを再確認してください。

注意

IP アドレスや HiQnet アドレスの変更後にコンソールを再起動することをお勧めします。これにより、全てのデバイスがこのコンソールの IP アドレスを検知して更新します。

- **HiQnet アドレスは正しく設定されていますか。**
ネットワーク上のすべての HiQnet デバイスに固有の HiQnet アドレスが設定されていることを確認してください。これには、ViSi Remote を実行しているすべての iPad デバイスとネットワーク上のすべてのコンソールが含まれます。

- **コンソールで HiQnet は On/Enabled になっていますか。**
 特定のイベントやアクションによって、HiQnet の設定がデフォルトで Off/ Disabled になります。ViSi Remote で制御したいすべてのデバイスで、HiQnet を On/Enabled にする必要があります。
- **Si Expression、Performer、Compact の HiQnet、IP アドレス、サブネットマスクを変更してから再起動しましたか。**
 これらの設定の一部は「ライブ」で変更することができないため、新しい設定を表示したり反映するには、コンソールを再起動する必要があります。
- **ViSi Remote が定期的にオフラインになります。**
 作業中の RF 環境を分析するには専用機器が必要ですが、ワイヤレスルーターを中央に設置する、ルーターのセキュリティを有効にする、別のチャンネルに切り替える、別の帯域 (iPad とルーターが対応していれば 5.0GHz など) で動作させるなど、どうしても回避できないワイヤレス・トラフィックの一部を回避するのに役立ちます。Soundcraft では、ネットワークの運用に支障をきたすモバイル機器による不要な接続を防ぐため、Wi-Fi ルーターのセキュリティを有効にすることを推奨しています。
- **Vi2、4、6 から音声が出ません。昨日は出てました。**
 この問題は、V4.7 以前のソフトウェアが動作しているコンソールでのみ発生します。それ以前のソフトウェアでは、192.168.1.xxx の範囲の IP アドレスが Vi の DSP エンジンと競合し、オーディオが動作しなくなる可能性がありました。これは、コンソールを起動した直後にのみ発生します。この問題を回避するには、Vi コンソールを V4.7 以降のソフトウェアにアップグレードしてください。
- **ルーターが接続された状態で Vi コンソールを起動すると "Getsockopt failed: Socket Error: Unknown" というエラーメッセージが表示されます。**
 これは V4.6 ソフトウェア特有のメッセージで、お使いのコンソールが 4.7 以降のソフトウェアを実行している場合は発生しません。
- **ルーターは正しく接続されていますか。**
 ほとんどのワイヤレスルーターには、Si Compact や PC などの「クライアント」デバイスを接続するためのポートが 4 つと、ルーターがインターネットに接続するためのポートが 1 つあります。
 Vi は「クライアント」ポートに接続している必要があります。
- **ViSi Remote がコンソールの正しいフェーダーをコントロールしません。**
 ViSi Remote のフェーダーの順番は、コンソールの標準フェーダー構成をコピーするため、コンソールでフェーダーの割り当てを変更しても、ViSi Remote には反映されません。

ViSi Remote 2.1.x 以降では、チャンネルラベルが ViSi Remote のチャンネルストリップに表示されるため、この問題は発生しません。

- **ViSi Remote のグラフィックは iPad 画面上で 90 度回転します。**
古いバージョンの ViSi Remote を iOS 6.0 で使用しています。ViSi Remote を V2.1.x 以降にアップグレードしてください。

